

日本学術会議・地球惑星科学委員会・地球惑星科学国際連携分科会
SCOSTEP-STPP 小委員会(第24期・第3回)議事録

開催日時: 2018年11月26日(月) 12:40-13:10

開催場所: 名古屋市千種区不老町 名古屋大学野依記念学術交流館 1階会議室
インターネット会議システム (zoom): <https://zoom.us/j/977480306>

出席者: 石井守、小原隆博、草野完也、塩川和夫(議長)、高橋幸弘、津田敏隆、藤井良一、
増田智、山本衛、吉川顕正

出席者(インターネット): 坂尾太郎、末松芳法、寺田直樹、星野真弘

欠席者: 上野悟、大村善治、中村卓司、廣岡俊彦、村山泰啓

オブザーバ: 三好由純、宗像一起 (インターネット)、渡部重十

議事次第

(1) 次期 SCOSTEP プログラムの策定と日本の貢献の可能性について

塩川委員長から次期 SCOSTEP プログラムに関して、11月の ISSI 科学フォーラム(北京)で検討された内容及び現時点でのプログラム案について報告があった。また、今後の進行について、12月に上記の提案がコミュニティに公開され、意見をさらに収集した後、2019年2月にベルンで開催される ISSI 科学フォーラムにおいて、再度、議論され、3月に SCOSTEP の理事会に提出される予定であるという説明があった。その後、この説明に対して、自由に議論を行った。議論の要点は以下のとおりである。

- ・提案されている次期プログラム案は、これまでのプログラムと似ているが、何が違うのか。
→ Prediction が強調されている点が異なっている。
- ・Climate Change などの問題では Projection が重要になってきている。Prediction と Projection のどちらのニュアンスが強いのか分からない。
- ・今季(VarSITI プログラム)では、Outreach と Capacity building が強く前面に出されていて、その点は今までに無い特徴であるように思う。
- ・Predictability がメインに出ているので、予測において重要になる AI や data science などのキーワードを明示的に入れたほうがいいのか。
- ・AI/Data Science も含めて、提案されている次期プログラム案には問題を解決するための「手段」が示されていない。
- ・予測に関して、Operational prediction と物理機構の理解の協力・融合が重要。
- ・これまでのプログラムで明らかになったことと本プログラムで挑む問題について、整理して具体的に示したほうがいいのか。
→ 現在、具体的な科学課題を同定しようとしている段階で、具体的な課題・質問は提案に含まれる予定である。
- ・これまでのプログラムの包括的なレビューが必要ではないか。
→ 北京の会議では、会議の冒頭に VarSITI に関するレビューのプレゼンを行った。VarSITI に関しては、2019年6月10-14日にブルガリアで開催される VarSITI Completion Symposium で総括が行われる予定。
- ・これらの意見は日本の SCOSTEP-STPP 小委員会からのコメントとして、取りまとめて12月に NSP committee に伝えることになった。

(2) 国際学術団体活動調査の記載内容の確認

・塩川委員長から資料3に基づき、国際学術団体活動調査について、本小委員会からの回答案の説明があった。また、その中に記述されている SCOSTEP の SDR 委員の確認が行われた。

(3) 2019年度の代表者派遣の推薦依頼について

- ・塩川委員長から資料4に基づき、2019年度の代表者派遣に関する説明があった。派遣を希望される委員は、11月末までに塩川委員長宛に連絡する。
- ・2019年7月にカナダのモントリオールで開催されるSCOSTEPの代表者会議(総会)で、次期のSCOSTEPの officer の選挙が行われる予定。

(4) 次期会合の予定

今後、急いで議論する必要のある案件が出てこなければ、2019年5月に千葉市で開催されるJpGUの会期中に開くことが了承された。

以上。